

磯部 哲

## ② 衛生局研究発表会について

衛生局は保健医療、食品・環境衛生、斎場・

墓園の整備等の幅広い業務を行っており、保健所、市立病院、斎場、墓地などのほか、市場の食品の衛生状況をさまざまな角度から検査し市民の台所を守る食品衛生検査所・食肉衛生検査所、食品・環境汚染物質・食中毒菌・ウイルス・害虫などの検査・研究を行う衛生研究所、狂犬病予防法などに基つき動物の保護管理を行う畜犬センターなど多種多彩の職場があります。これらの職場は市民の生涯すべてのライフステージにわたり市民生活と深く関わりあっています。

職員数は約二千五百人であり、職種は医師、看護婦、保健婦、食品衛生監視員など約四十職種に及び、他局では考えられない多くの職種の職員が連携して市民の健康に関わる各種の事業を行っています。そのような職員が、毎年一同に集まり日頃の職務に関する研究の成果を発表する場として開催しているのが衛生局研究発表会です。この研究発表会について簡単に説明いた

します。

### 一——目的

今年度、第二十六回を迎えた研究発表会は、衛生局職員の相互理解と協調、お互いに研鑽する積極的な態度を養うため昭和四十一年に始められました。それまでは各職種や職域で自主的な研究会が開催されていたのを総合的に行うようにしたものです。主な目的は次のとおりです。

#### ① 局内での業務の相互理解

専門職の多い所属では、他の所属でどのような問題を抱えているのか、ふだんの業務の中では分かりにくいものです。そこでそれぞれの職場が今どんなことに取り組んでいるのか、問題点は何かなどを把握することにより局としての一団感を強め局としての連帯を形成することにあります。

- 一——目的
- 二——概要
- 三——運営
- 四——発表事例数及び発表内容
- 五——問題点
- 六——まとめ

#### ② 同種職場間での情報交換

他の所属ではこの業務にどのように取り組んでいるのか、他の所属で行っている調査・研究が自らの業務に参考になるところはないだろうかというように、同種職場間での情報交換を行うことにより、事業の質を高めるのが第二の目的です。各事業所ごとの事業水準のレベルアップにも大いに役立っています。

#### ③ 専門性を高める

衛生局職員の研究の中には全国レベルの学会で発表されるような学術的に優れたものも多くあります。それらを局内で発表することにより、聴講する職員の研究意欲や自己啓発意欲を高めることはもちろんですが、発表者も発表技術の向上を図ることができます。

### 二——概要

研究発表会は年一回、八月末に横浜市健康福祉センター四階ホールで二日間にわたり開催されます。定期的には職員が参加しやすい時期を選んで設定しています。また毎年同時期に同じ場所で開催しているため、局内への周知はよく図られています。発表形式は口演で行う一般発表と抄録に掲載する誌上発表、また今年度からホールロビーでパネルに発表内容を掲示して発表者が説明を行うポスターセッションが増え三通りとなっています。発表の場合、一発表あたりの時間は六分で他に質疑三分を割り振っています。これは全国的な各種学会とはほぼ同様の形式であり、第一回からほとんど変わっていません。しかし、第一回では二十二題であった発表事例も、ここ五年間では平均八十題と大幅に増えています。そのため、当初は一日で終了しましたが現在では二日間にわたり開催しています。集まった発表事例は、同種のテーマのものを数題集めてグループ分けを行い、そのグループごとに司会進行役である座長を選任して発表を行っていきます。発表事例については事前に発表者からそれぞれレジュメを提出してもらい、それを抄録として一冊にまとめ各所属や発表者に事前に配布します。また、局内外から講師を招いて特別講演を行っています。これは衛生局職員として、より幅広い知識と見識を習得するた

め行うものです。今年度は著名な作家に対人関係をテーマとして講演していただき、聴講者も多く好評でした。

### 三——運営

研究発表会では局長が研究発表会会長をつとめ、運営面においては総務部長を委員長とする運営委員会を設置し、その充実を図っています。委員は保健所や病院、事業所の長、局の部課長など約三十人ほどで構成されています。運営委員会では発表方法などの骨子を決定するとともに、応募のあった発表事例をグループ分けして、グループごとに座長を選任するなどの活動を行っています。

表-1 5年間ごとの平均発表事例数

回数	1回平均事例数
第1回～第5回 (昭和41年度～昭和45年度)	27題
第6回～第10回 (昭和46年度～昭和50年度)	32題
第11回～第15回 (昭和51年度～昭和55年度)	41題
第16回～第20回 (昭和56年度～昭和60年度)	62題
第21回～第26回 (昭和61年度～平成3年度)	83題

表-2 保健所の発表事例の伸び

回数	保健所	他の所属
第16回-第18回(昭和56年度～58年度)	100	100
第19回-第21回(昭和59年度～61年度)	174	143

第16～18回を100とした場合の第19～21回の発表事例数

発表事例の傾向には局の施策の動向がダイレクトに反映されており、新規事業等に関する各所属での工夫や先駆的な取り組みが局の共通の財産となつて蓄積されていきます。

② 所属別発表事例数  
このような研究発表も一部の職種や所属のみに発表

### 四——発表事例数及び発表内容

#### ① 発表事例数

これまでの研究発表会において発表された発表事例数は今年度までで千二百二十題に及んでいます。各五年間ごとの平均は表-1のとおり推移しています。

発表事例数が年々増加していくのが分かります。特に第十九回あたりからは、それまで五十題ほどであった演題数が七、八十題に跳ね上がっています。これは局内全体で研究発表会が浸透・定着し、全分野的に発表事例数が増加したこと、昭和五十八年に老人保健法が施行され、その事業実施にかかわる保健所の発表が大きく増加したことにより増えています(表-2)。このように

表-3 発表事例の所属別内訳

	題数	割合	職員数割合
保健所	35題	45%	35%
食品・食肉 衛生検査所	4題	5%	2%
病院	28題	36%	51%
衛生研究所	10題	13%	2%
局・その他	1題	1%	10%
合計	78題	100%	100%

表-4 分野別発表事例内訳

テーマ	発表事例数	割合
保健所・衛生研究所・検査所ほか	地域活動	10 12.9%
	高齢者	9 11.5%
	障害者	6 7.7%
	食品衛生	6 7.7%
	細菌・環境	5 6.4%
	育児・児童	4 5.1%
	成人健診	3 3.8%
	有害昆虫等	3 3.8%
	その他	5 6.4%
	看護	10 12.9%
病	放射線	4 5.1%
	リハビリテーション	4 5.1%
院	薬剤	3 3.8%
	給食	2 2.6%
	検査	2 2.6%
	健診・保険	2 2.6%

五 問題点

が片寄っているのは、その目的が達成されません。直近の第二十六回大会における発表事例の所属別内訳は表-3の通りです。「局・その他」の他はほぼ平均的に発表事例が出されています。このように各所属から一様に発表事例を集めているということは、二十六年もの間継続して研究発表会を続けてきたことにより、職員の中に定着してきた結果といえるでしょう。

このように発展をしてきた衛生局研究発表会ですが、今後に向けていくつかの問題点を抱えています。

① プログラムの編成について

前述したように、発表事例は同種の数題をグループとしています。そのグループをあまり傾向が片寄らないように編成していますが、これには「日常業務以外の発表を聴講し、見聞が広まった。他職種の努力・苦勞がよく分かった。」という参加者からの意見や「同じ様な分野の発表は一日にまとめて発表してほしい。」という意見など賛否両論があります。事務局として

してはできる限り局内全般の事業について理解をしてほしいとの観点からバランスのとれたプログラムの編成を行っております。

② 時間的な制約について

二日間の大会期間では現在の発表事例でほぼ満杯の状態です。そのために「討議する時間が足りなかった。」などの意見が聞かれます。しかし、これ以上大会期間を延ばすと今度は参加者が分散され規模が結果的に縮小されてしまう懸念が生じます。発表者にはできるだけ多くの聴講者の前で発表をしてみたいという気持ちもあり、これ以上、開催期間を延ばせないのが実情です。

③ 聴講者の増加について

現在、延べ約六百人の参加者ですが、衛生局職員は病院看護婦などに代表される変則勤務の職員が七百人を越え、そのほかにも検査業務などにより、聴講が思う様にならない職場もあります。そこで日程などを各所属に周知するため、事前に簡単なお知らせを作成して配布するなどしていますが、聴講者を増やすには運営に工夫をこらすとともに所属ぐるみでの計画的な参加が必要となっています。

④ 発表内容

第二十六回研究発表会の分野別発表事例内訳は表-4のとおりです。広い業務にわたって応募されていることがわかります。

という意見など賛否両論があります。事務局として

## 六——まとめ

これまで衛生局研究発表会の事務局として説明いたしました。この研究発表会は局内事業

の縦横のつながりを強め、職員一人ひとりが自らの業務を見直し次の一步へと進むきっかけとして、また今後の事業を進める参考として大きな役割をはたしています。今後も種々の問題点

をクリアしながら一層の充実を図ってまいりたいと考えております。

△衛生局総務部厚生課厚生係▽